

# ウラムラサキシメジを 食べて顔が腫れた話

佐野 悦三  
etuzou sano

1997年10月の千葉南類談話会の採集会は本郷先生を招いて佐倉城址公園で行われた。姥が池近くのスタジイの大木の根本でマイタケが採集されたり、広場の奥で大きなオニフスベがいくつも見つかったりと、手入れの行き届いた公園で行われた割には収穫があった。

わたしは前日の飲み会の疲れが残っており、本郷先生の同定会の最中、失礼ながらほとんど居眠りをしていただけで、途中目を醒ましたとき、先生は、ちょうど傘の表面がうす茶色で裏側がうす紫色のきのこを指し「ウラムラサキシメジ」であると話されているところであった。関東ではよく見つかるが、関西では珍しいとのことであった。ご多分にもれず、食・毒について話しが及んだとき、何人かの方が「このキノコをよく食べている。おいしい。」と話していた。

わたしは食べることにはあまり興味がないので聞き流したが、採集会が終わり、みなさんと三々五々駐車場に向かっていくところ、テニスコート近くの竹藪に何人かの人が集まっているのに気づいた。竹藪の中にこのキノコがたくさん生えており、写真を撮ったり採集したりしているところであった。たくさん生えている。「おいしい」という先ほどの話が頭に浮かんだので、思わずスーパーの袋に一袋ほど取ってしまった。

家に持帰り、さてどうしたものかと考え、澄まし汁にして食べることにした。具はこのキノコだけである。以前、食べられるというキノコをとって帰り、具たくさんさんのケンチン汁風にしたところ家族に大変不評で、具ごと一鍋捨ててしまったようなことがあったので、最小限の損害で収まる料理法にしたのである。出来上がって食べて見ると、うーん結構いける。家族は、野生のキノコには警戒感が強いので一杯しか食べないが好評であった。わたしは2杯3杯とおかわりした。その夜は家族全員、何事も無く床に就いた。

翌朝起きて見ると、わたしはなんだか顔がはれぼったく感じる。顔を洗うとき鏡で見ると少しむくんでいるようである。家族の方は全くそんなこともなく普段通りの朝である。会社で仕事をして

いるとやはり顔がはれぼったい。しかもだんだんひどくなるようだ。仕事を終え家へ帰りつき女房と顔を合わすなり女房が叫んだ、「おとうさん、その顔はどうしたの！」驚いて洗面所に飛び込み鏡で自分の顔をみた。こりゃひどい。顔がお月様のようなのだ。でも、原因が思い浮かばない。わたしはアレルギー体質のようで、山で小さなブヨに顔を刺されて顔全体が張れあがってしまい、病院へ駆け込んだことが2度ほどある。ウシアブに刺されて腕が丸太のように腫れ上がったこともある。虫にやられた場合は反応が早く、1時間もしないうちに腫れ上がってくる。城址公園で虫にやられたなら帰る途中で腫れてくるはずで、虫にしては腫れが遅い。何が原因だろう。思い当たるものといえば昨晚食ったウラムラサキシメジくらいしか思い浮かばない。そこでウラムラサキシメジを持ち帰った何人かに電話した。みなさん「おいしかった」との返事で、顔が腫れたりその他の症状がでた人はいない。あれあれ、わたしだけ人当たりかなあ、と半信半疑でそのときは終わった。

10月も末になってハタケシメジのシーズンになったので採りに行った。この年はハタケシメジは大豊作であった。おいしいものだけ選んでスーパーの袋に3杯ほど採って家に持ち帰った。やはり澄まし汁にしたところ、さすがハタケシメジは家族にも好評で、みんなお代わりをした。その夜半のことである。わたしはどうも顔がほてっている感じがする。いやな予感がしたが、起きるのも面倒さいのでそのまま朝を迎えた。ダイニングに降りて女房と顔が会った途端、彼女が「おとうさん、顔が腫れてる！」と言った。そうか、原因がわかった。今回はハタケシメジで、前回はウラムラサキシメジが原因だったのだ。顔の腫れは2・3日でひいた。以後、キノコ、特に野生キノコは出来るだけ食べないようにしている。止むを得ず食べる時は、ほんの少しだけにしている。1年たってもまだハタケシメジのシーズンが来た。去年ほどではないがたくさん採れたので、ほんの少しをおそるおそる食べた。今度は何ともなかった。少しだけなら食べてもなんでもない。安心した。

※次ページにウラムラサキシメジの解説があります。